

## 9月のデキゴト

### 1. テーマ・開催場所など

#### ① テーマ

城山の自然

#### ② 開催場所

今年度5回目(内2回は中止)のいずみ自然塾は、新型コロナウイルスの感染予防の為、集団行動を避け「環境学館いずみの学習室」での開催となりました。

#### ③ 講師

講師は、「坂戸サワギキョウの会」代表の萩原 章 先生です。  
城山の近くにお住まいで、当会で20年近く活動されています。

#### ④ 受講者

受講したのは、自然観察会のメンバー30名です。  
ボラティアのメンバーも参加してもらいました。

### 2. 城山の地形

大部分が台地の坂戸市にあって唯一の山です。標高は113.4m、面積は約40ヘクタールで、高さ、広さとも小さな山ですが、山地と台地の境の変化に富んだ豊かな動植物相が残ります。

- ・南側: 高麗川に削られた急峻な崖で起伏に富んでいる。
- ・北側: なだらかに田んぼへと続いている。

### 3. 自然観察会の要約 (4項に詳細を記載)

今回の自然観察会は、「自然を育む輪を広げよう」の主旨に沿った素晴らしい内容でした。詳細は4項をご覧いただくこととして、まず簡単にポイントをお伝えします。

#### ① 城山に注目するわけ

「坂戸市で唯一の山」であるだけでなく、「希少な動植物がたくさん生息・生育している」こと。

#### ② 地図と資料で散策体感

各場所の、「地形」「自生する植物・開花時期」そして「動物の生息」等を紹介。  
南側と北側で地形がかなり違うことや、「湿地でハッカの自生」「サワギキョウの生息状況」など、実際に散策している気分になる。

#### ③ 城山の生いたちを語る崖の地層 (自然の宝庫の理由!)

城山の地層は、「岩盤の上に火山活動によるローム層が積もったもの」である。

ローム層は雨水を通すが、岩盤は通しにくいので、「この境の層から豊富な湧水」となり、これが豊富な動植物を育てている。

④ その他説明

「城山の歴史など」「生態系のピラミッド」「太陽光発電計画地と寄附地」についても、講師の想いを込めて説明。

⑤ 講座の最後に受講者からの質問

受講者からの熱気ある質問多数。

#### 4. 自然観察会の内容

自然観察会は受講者に配付された資料をもとに、萩原講師の正面ボードに貼った「模造紙に書いた手書き資料」での説明で進められました。

最近、パソコンで作った資料をプロジェクターで映し出している説明が多いので、手書き資料は「温かみ」を感じます。



(自然観察会の室内スナップ)

1) 城山に注目するわけ

「なぜ城山が貴重なのか」をまず紹介されました。

① 坂戸で唯一の山

② 希少な動植物がたくさん生息・生育している。

特にあげられる植物

県天然記念物 ステコビル

城山のサワギキョウ

(城山に生息する絶滅危惧種：植物42種、動物42種)

2) 地図と資料で散策体感

各場所の、「地形」「自生する植物・開花時期」そして「動物の生息」等を詳細に紹介されました。



(No.1 地図)

(1) 城山南側

城山の中央から流れ出る沢が起伏をつくり、ハッカの自生する湿地と切り立った崖で高麗川に接し、多様な動植物と地形の変化が見られます。

ルートと説明いただいた内容の一部です。

<ルート>

①城山荘周辺→②高麗川への道→③ハッカの湿地（午の沢）→④谷の道→  
（北側に続く）

<一部内容>

- ・「城山荘周辺」では、5月中旬に城山荘の庭と斜面にムサシノキスゲが咲く。
- ・「ハッカの湿地」では、城山に降った雨が地中に浸み込み湧水となって周囲の崖から出てくる湿地でハッカが自生している  
また、アオバト、フクロウ、オオタカの飛来、ウサギやキツネ、アナグマなどの生息も確認されている。
- ・「谷の道」は、沢が山を深く削り小さな溪谷をつくっており、起伏もありいろいろな植物が自生している。

(2) 城山北側

城山を南北に分ける尾根道の北側は緩やかな傾斜で新しき村の水田と接しています。東西に小沢があり、東の沢は養魚池の湿地へ、西の沢はサワギキョウの湿地を経て新しき村の水路に至ります。

ルートと説明いただいた内容の一部です。

<ルート>

（南側からの続き）→⑤尾根道→⑥5差路～サワギキョウの湿地→⑦サワギキョウの湿地～T字路→⑧T字路～6差路

<一部内容>

- ・「5差路～サワギキョウの湿地」では、サワギキョウが13株あり9月半ばに花をつける。サワギキョウは湿地に生える多年草で尾瀬など高原の湿地に多いが低地では稀である。

ここでは毎年見事に咲くわけではなく、数年前の見事な写真を配付してもらった。



(No.2 サワギキョウの写真)

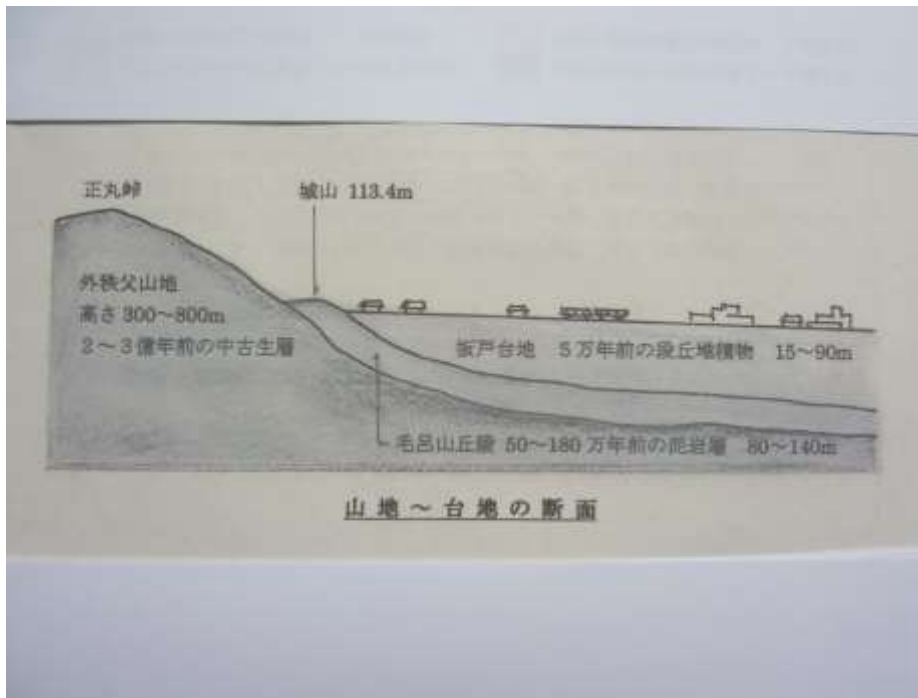
- ・「サワギキョウの湿地～T字路」では、穏やかな斜面にシダ類が生えている。

### (3) 城山の生いたちを語る崖の地層と湧水の分け

外秩父の山並みが終わりなだらかに続く台地に位置する坂戸市にあって、城山は岩石基盤をもつ唯一の山です。

180～50万年前の泥岩層の上に12～2万年前の富士などの火山活動によるローム層が積りました。

この泥岩層は水を通しにくいので、山に降った雨が礫層との境を流れ、湧水になって沢や湿地を作っています。



(No. 3 山地～台地の断面)



(No. 4 〇〇した崖の断面)

### 3) 城山の歴史など

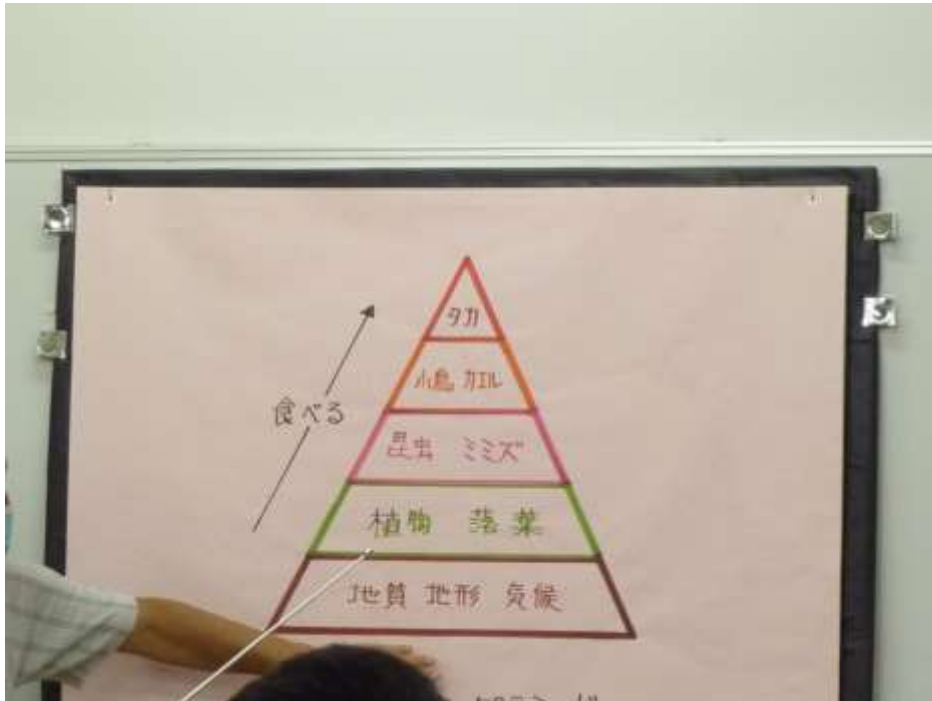
中世に築かれた”多和目城跡”、かつてこの地を治めた”稻生家の墓”、および短歌の刻まれた”午の沢の”道しるべ”について説明してもらいました。

<一部内容>

- ・「多和目城跡」は、戦国時代(室町幕府)に高麗川に面した急峻な崖に建っていた。
- ・午の沢の「道しるべ」は、過去の記録を基に萩原講師たちが笹をかき分け見つけたとのこと。

#### 4) 生態系のピラミッド

萩原講師の強い思いも込めて、一般的な生態系ピラミッドの一番下(ベース)に「地質 地形 気候」があることを説明されました。



(No. 5 生態系のピラミッド)

#### 5) 太陽光発電計画地と寄附地

ルート⑤「尾根道」の両脇が太陽光発電施設の元計画地です。貴重種のコクランとオオタカがいてくれたことで計画は中止となりました。

元計画地は地主の方のご好意で、坂戸市に寄附されたとのことでした。

本件について、萩原講師はいろいろな苦勞と思いがあったでしょうが、淡々と話されたのが印象的でした。

#### 6) 受講者からの質問

萩原講師からの説明が終わった後、受講者からの質問を受けられました。多くの方からの止まらない質問に、予定していた時間をオーバーするくらいでした。

質問と講師からの説明の一部を紹介します。

- ・湧水はどこで見ることができるか?  
→歩いているといたるところで染み出ている。(段差があるところ等)
- ・湧水はどこに流れているか?  
→沢に沿って流れている。  
新しき村の水路では、雨の多く降ったときには湧水の穴を見かける。

- ・ホテルはあるか?  
→城山に夜は行かないけど、いると思う。  
西坂戸団地内、少し離れた葛川沿いや、新しき村で見かける。
  
- ・カタクリの花は咲いているか?  
→見かけない。
  
- ・植物を盗掘されることはないか?  
→あまり聞いたことがない。  
それより、家庭で植えていた草花が繁殖したということで、持ち込んでこられることがあり、困っている。自然の状態を乱すことになる。
  
- ・サワギキョウをもっと増やせないか?  
→今のところ増やす取組みはしていない。
  
- ・城山は素晴らしいところであり、坂戸市としてもっと宣伝したらいいと思うが、反面宣伝し過ぎると自然が荒らされる懸念もある。  
どうしたらいいと思うか?  
→以前は秘密主義だったが、10年前ころからオープンにした。  
「ボランティアの方が、貴重な植物をカットしてしまう」ことを防いだり、整備費がもらえたりといったメリットがある。  
ただし、自然保護という点で考えると、どうすればいいか難しいところである。

#### 7) 地層からの出土品の陳列

木の根、枝の化石等を陳列していただきました。

#### 5. 最後に

自然を守っていくことと、経済活動や日常生活をしていくことと、時として両立しないことも出てきます。立場によって違ってくるので、どうすればいいか考えさせられます。

ここ「城山」については、単なる小高い山というだけでなく、「貴重な自然の宝庫」であることを再認識すると共に、環境保全に関わっている方々に感謝します。

本日受講された筆者を含め皆さん一人一人が、「自然を育む輪を広げよう」のとおり、「城山を守る働きかけ」を一步ずつでもしていただければと思いました。

記：KI

